



◆住まいづくりの無料相談会◆

毎月第4土曜日の13時から16時、鶴屋デパート本館5階インテリアカウンターにて無料相談会を開催しております。コロナ感染拡大防止の観点から中断をしておりましたが10月より再開いたしました。

- 10月23日(土) 村上亜紀さん、下野明希子さん
- 11月27日(土) 寺坂美紀さん、濱崎優子さん
- 12月25日(土) 倉富華奈さん、村上亜紀さん

ありがとうございました。



明けましておめでとうございます。

コロナが収束し、心安い日常が戻ることを
心から願っております。

熊本県建築士会女性部会一同

一緒に活動してみませんか(^-^)

昔から、そして今もメンバーを大募集しています。興味をお持ちの方は、FacebookからMessengerへ又はメールで LEB03540@nifty.ne.jp へお問い合わせ等ご連絡ください。お待ちしております！

※裏面には「熊本地震の記録」が掲載されています。前回に引き続き阿蘇支部の光原さんに執筆頂いています。4月で発生から丸6年が経過しようとしています。徐々に私たちの中で過去のこととなりつつある日常の中で、もう一度あの時を思い起すきっかけにきっとなります。是非目を通してみてください。

わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに全員が参加できる部会活動を目指しています。女性部会の最新情報はFacebookで随時更新中！

「熊本県建築士会女性部会」で検索 ♪🔍🔍🔍



2016年4月の熊本地震、6月の豪雨災害。その時阿蘇では何が起きていたのか。
どのように感じ行動したのか。第2弾 本震直後からのお話です。



阿蘇支部事務局
采建築設計室
代表 光原摂子

それから 我が家編

我が家は3日目に水が出た。濁って飲めるものではないが、匂いはないので手を洗う・体をふく・洗濯する・トイレを流すことができた。近所の人から小国や日田で温泉に入ってきたとか買い出しをしたという話を聞いたので、紙おむつを買いに車を出した。数日前にガソリンを満タンにしていたので当分は心配はいらない。道が悪いので遠回り・徐行しながら小国に着いた時、余りにも普通に驚いた。店にはまだおむつもあった。その帰り、阿蘇神社倒壊と阿蘇大橋の崩落を知った。どんな被害が起きているか全くわからない。そして市の体育館などでの電気の供給・水の配布（ペットボトル）・食料の配布が始まった。朝起きて、全手動の洗濯→携帯の充電と水の配給と情報収集が日課となる。地域的に温泉に恵まれているので、旅館や銭湯の開放が始まった。連れ立って入った時の気持ちよさは格別だった。毎日、違う旅館やホテルの大浴場を回った。あるホテルはスプリンクラーの破損で廊下は小雨が降ったような状態での浴場無料開放で、気の毒であったが、従業員さんの「お風呂は使えるから、できることはしたい」という言葉が記憶に残っている。

子供たちが友達の手配を始めたので、避難所に友達を探しに行った。避難所はほぼ高齢者と子供たち、赤ちゃん連れの母親だけだった。家の片付けなどできる人達はいなかった。子供は友達を見つけ、一安心した。避難所での問題は年齢によって、生活パターンが違うことだ。遅寝早起き昼寝の年

齢層にとって、昼間の子供たちの声は騒音でしかなく、怒鳴り声を聞いた。そういう状況に耐えられず、安全とは言えない自宅に帰る人が出てきた。数日後行った時には、子連れの家族は大半が自宅に戻り、自宅が半壊全壊でどうしても帰れない人だけになっていた。ホテルが避難所として開放されるまで、子供をもつ家庭は不安とストレスの中での避難所暮らしだったと思う。

そんなある日、微かな電子音???固定電話が鳴っていた。停電でも固定電話が鳴るということを知って驚いた。途切れながら親族からの安否確認だった。携帯は通じないこと、水と食料の確保のため、自宅には居ないので電話に出ないことを伝えた。心配してくれる反面、「どうして電話に出ない」と叱られ、心が沈んだ。この地震から私は災害が起きても、心で祈って、落ち着いて連絡するようにしている。

実際に被災して思うことは、情報が全く入らないということだ。こんな状態だから、デマが広がるのもうなずける。自衛隊到着までは、情報は市役所の方でも、一日に数回入る県からの衛星電話だけだと言われていた。市役所の支所のホールにあるテレビとホワイトボードの前の人ばかりを思い出す。

さて、食糧事情の話しよう。停電なのでとりあえず冷蔵庫と冷凍庫のものを食べようということになった。プロパンガスはすぐに使えたので、ガスコンロでご飯を炊くこともできた。近くに旅館・飲食店が多いので、仕入れていた食材がもったいないと、格安で露店販売があっていた。地元産米のおにぎりに高級赤牛の焼肉、豚汁もあった。地震から数日はそんな贅沢をして、そのうちには、ご飯はあるので、レトルトのおかずが手に入るようになり、不自由なかった。ただ、離乳食中の子供がいる家庭はずいぶん苦労されたようだ。(つづく)